



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校
学校便り No.26
令和7年 3月19日
文責：校長 齋藤和彦

「傳さん・品竹さんのお話から」

～昔話であり、今につながるお話～

本日、1～5年生の“薫の教育[修了式]”を行いました。明後日は、卒業証書授与式です。

今週は、あちこちの教室で“お楽しみ会”が開かれていて、時折..一斉に沸く学級みんなの笑い声や大きな拍手が、ろうかまであふれ出ていました。(学級って、教室って..いいなあ)

薫の子一人ひとりそれぞれに、楽しかったこと、努力したこと、できるようになったこと..、また、少々の困難や苦手を乗り越えてきた満足感があつたからこそこの“あの教室全体の一体感”なのでしょう。『進級おめでとう!』

先週末、青少年健全育成薫地区協議会主催の標語表彰に、傳 お麗さんと品竹悦子さんが校長室においでになり、2名の特選児童に賞状を伝達してくださいました。(HPに掲載)

そして、お二人が、かつて薫小の保護者だった頃のお話を聞くことができました。

・・・わが子が薫小に入学したとき、担任の先生は、大学を出たばかりの若い先生でした。お母さん方は、なんだか不安げに、“こんなに若い先生で大丈夫かしら..。時折、あれは、これは、と心配の声を口にしていました。(運動着や服のたたみ方もよく指導できないから、いつまでもできない。なんてことも)” ～そこで、学級懇談会の折に、

「ちょっと待ってください。家庭で教えるべきことは、きちんと家庭で親の責任で(躰)するものですよね。先生はちゃんと大学で先生になるためのたくさんの勉強をして、教育委員会から、“薫小学校をお願いします”と任命されて、薫小においでいただいているのでしょう。初めてで困ったり悩んだりすることももちろんあるはずですが、こんなにたくさんの私達お母さんがいるのだから、困ったことがあつたら何でも相談していただいて、先生に協力して、私達親と一緒に子ども達を育てていきましょう。」と。

また、「わが子が“行ってきます!”と玄関を出たら、学校の先生を信頼して全てをお任せしましょう。親が、あれこれとわが子の言動を先取りしていたら、子どもも成長できないし、先生も困ってしまうのでは..」とも。

こうして、ことあるごとに、保護者が先生と一緒に考え、たくさんお話して..どの子も大切に育てていただきました。楽しかったなあ～。

きっと今の保護者の親世代のお話ですね。
薫小の昔話であり、今につながるお話でした。

◆◆ 校長室から ◆◆

～薫の子どもの力を信じて～



左に記載した“昔話”つながりで..卒業生に..薫の子みんなに..薫の教育を支えてくださった保護者の皆様にお話します。

私は、昔話が好きです。

- ・正直者のおじいさんが、お話の最後には、「いつまでも長生きしたとさ」となるからです。
 - ・働き者の娘さんが、最後には、「町一番のきれいなお嫁さん」になることができるからです。
 - ・ごんが、最後には兵十に、「ごん、おまいだったのか..」と言ってもらえたからです。
 - ・・・「泣いた赤おに」の赤おにも青おにも、「おにたのぼうし」のおにたも好きだなあ。
- ～正直やややさしさ、一生懸命って、他人には気付かれないことがあります。『本当に大切なことは、目には見えにくい』ものなのですね。

私は、薫の子の“よさ”は、学年を問わず誰もがつくる“やわらかな関係性”だと考えます。

これは、『本当に大切なところを見ようとしている』から..。(見えているから、感じているから)に他なりません。すばらしい!すてきです。

この関係性が、授業の中にも..競い合う場面にも..トラブル解決においても..よい方向に向かう近道となってきたのです。(薫の子のもつ魅力であり、大きな可能性でもあります)

新年度が来ます。きっと、「先生お願いします」このひと言の年間契約が交わされます。

「行ってきます」の後は、保護者の皆様には、子どものもつ力を信じて、薫の先生を信じて..先生に、お子さんを託していただきたいと願います。

必ず..薫の先生は子どものことに全力を尽くすはずですよ。



◆◆ 最後に..校長より ◆◆

【学校だより】には、校長の学校経営の思いや願い、保護者の皆様と一緒に考えたいこと等々を記載してきました。時に、校長の独りよがり、強いお願い、生意気に感じたこともあつたかと思ひます。

～校長任期..砂時計が尽きます。薫の教育にご理解ご協力いただきましたこと、そして、学校だよりを目を通していただき、感想やご意見等々をいただきましたことにも感謝いたしております。

ありがとうございました。『薫小学校に感謝』